

科目名称 (Course Title)				担当教員(Instructor)	
哲学				狹間 芳樹	
開講学期 (Semester)	単位数 (Credits)	履修年次 (Requirement)	授業形態 (Class Type)	受講定員の有無 (Maximum Enrollment)	授業公開 (Workshop Class)
前学期	2 単位	1 年次	集中講義	無	
授業の概要 (Course Description)					
<p>哲学は「存在（私）とは何か」を追求する学問と定義されるが、そもそもその「私」たち人類はいつごろ登場したのか。さらに私たちが暮らすこの「世界」はいつごろ、どのようにして始まったのか。起源（はじまり）を問うことは同時に行方（おわり）を問うことでもある。こうした疑問に対して、かつては神話や宗教がその説明を担っていたものの紀元前七世紀のギリシアでは、それらに対する論理的な探求が志され、ここに哲学（philosophy）が誕生する。以来、多くの哲学者たちによって、この世界や私たちの周りに存在する事物の本質、また空間と時間、有限と無限といった諸命題について思索がなされてきた。</p> <p>本講義では古代ギリシアから現代までの代表的な哲学思想を概観して学びながら、最終的に受講者各人が演繹、帰納、批判といった哲学的思考法を修得し、自らの考えや意見を論理的に述べるができるようになることを目指す。</p>					
授業の到達目標 (Course Objectives)					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 哲学全般における基礎的な知識を修得し、説明することができるようになる。 2) 演繹的且つ論理的に分析し、誤った論理に惑わされないための思考力を身につけることができるようになる。 3) クリティカル・シンキング（批判的思考）の技法を涵養するとともに、自らの考え方をコメントや質問ができるようになる。 					
授業計画 (Course Schedule)					
第 1 回	ガイダンス／はじめに―「哲学」とはどういう学問なのか―				
第 2 回	呪術・宗教・芸術―哲学的思考の登場―				
第 3 回	古代ギリシアの哲学―ソクラテスとプラトン―				
第 4 回	近代的思惟の到来―ルネ・デカルトと合理主義（演繹的思考）―				
第 5 回	科学的思考の萌芽―フランシス・ベーコンの経験主義と帰納法―				
第 6 回	人間の知性と理性―ジョン・ロック『人間知性論』と社会契約説―				
第 7 回	実在と認識―ヘーゲルの観念論と弁証法―				
第 8 回	実存主義哲学と文学―サルトル『嘔吐』、カミュ『異邦人』―				
第 9 回	レヴィ＝ストロースの「構造主義」と「ポスト構造主義」				
第 10 回	神話的世界の意味と啓蒙思想				
第 11 回	マルセル・モースの「贈与論」と「供儀論」				
第 12 回	ジョルジュ・バタイユの哲学―「普遍経済学」「有用性の限界」―				
第 13 回	政治と哲学―オルテガ『大衆の反逆』、ロールズ『正義論』―				
第 14 回	現代における「反知性主義」の趨勢と哲学の役割				
第 15 回	まとめとフィードバック―「批判的思考」の意義―				
授業時間外学習 (Supplementary Activities)					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業後に、配付プリント等を参照しながら講義内容をまとめることが必要である。 2) また、講義で概略のみ説明した部分について、授業中に随時紹介する参考文献などで調べ、自分なりのノートを作るといった発展的な学習が望まれる。 					

